1953年6月16日　第三種郵便物認可

2024年5月27日（月）3162号　隔週月曜日発行

民主青年新聞

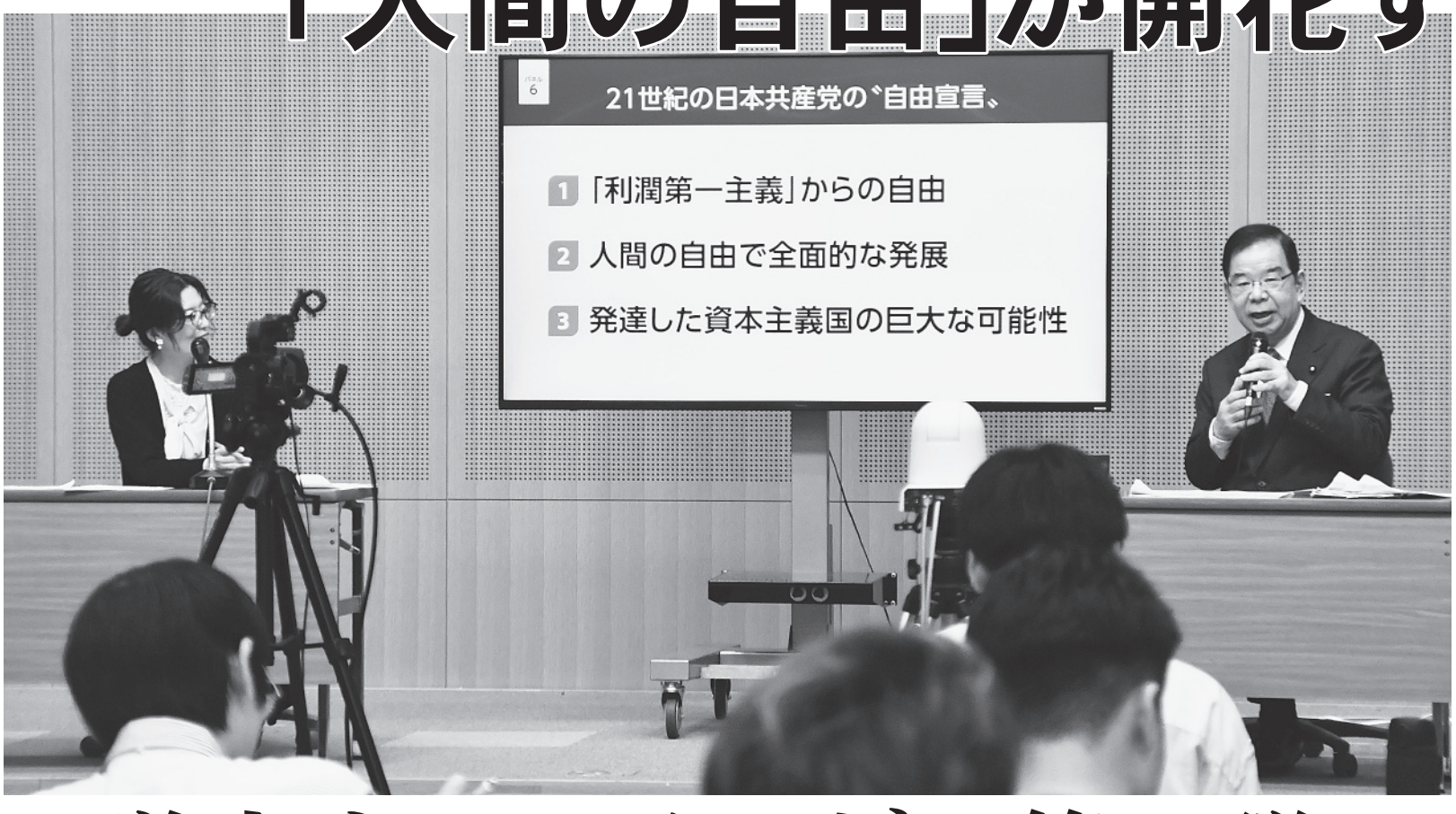
DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ
なぜ学ぶ？　憲法　6、7面
新基地建設止め、希望ある政治へ　3面
戦後80年にあたり日本は歴史問題にどう向き合うべき？　10、11面

▶ホームページ www.dylj.or.jp　▶Eメール minsin@dylj.or.jp

「人間の自由」が開花する未来社会への高まる期待

学生オンラインゼミ第3弾



▶学生オンラインゼミで質問に答える日本共産党の志位議長（4月27日、日本共産党本部）

民青同盟主催の学生オンラインゼミ第3弾「『人間の自由』と社会主義・共産主義―『資本論』を導きに」が4月27日に行われました。社会主義・共産主義について、青年・学生との対話や民青の学習で出された疑問などを基に、民青で35の質問を作成（質問項目は2面に掲載）。日本共産党の志位和夫議長がそれらの質問に答えて講演しました。オンラインゼミに参加した学生たちに講演の感想を聞きました。

（文中の学生は仮名、塩田悠玄記者）

「このままの社会では駄目だ」

北海道の谷口光さん（大学院修士2年）は、「自分自身、生活する中で円安がものすごく進んでいることや物価高が今後どうなるのかなど、不安が膨らんでいたタイミングでの今回のオンラインゼミだった」と言います。「奨学金を返さないといけないので、今後ちゃんと生活していけるのか不安だと思うことは多かった。でも、講演を聞いて日本がどう進んでいけばいいのか分かり、自分の大きな指針になった」と話します。

講演で志位さんは、資本主義の特徴である利潤第一主義の害悪の一つに「あとの祭り」の経済を指摘。その例に、恐慌（きょうこう）と気候危機を挙げました。谷口さんは、「資本主義は、絶えずバブルと恐慌をくり返して『あとの祭り』経済でやってきたが、恐慌は資本主義の中でなくすことができないこと、そして気候危機は決して『あとの祭り』にしてはいけないという志位さんの話にはハッとした。この社会をこのままにしては駄目だと思えた」とも話しました。

「本史」への発展が展望に

大学院では、医療分野に関わる理工系の学問を専攻している谷口さん。利潤第一主義を就活でも実感しているといいます。「就活では自分が学んだものが、『どうお金を生むのか』『うちの会社にどう役立って、生産コストをどう減らして利潤を増やしてくれるのか』に一番重点を置かれる」と話します。さらに谷口さんは、「医療分野であっても資本の論理は強く、AIの活用にしても人件費削減が主な目的にある。患者にとって一見メリットがあるように見えても、人との関わりが重視される医療が薄れていく」と言い、オンラインゼミを通じて、「コスト削減やもうけを増やすための生産から解放される必要があると思った」と話しました。

谷口さんは、資本主義の問題点に危機感を抱く一方で、志位さんの講演の中でさまざまに示された未来社会に対する期待も感じているといいます。マルクスが人類社会の「前史」は資本主義で終わり、社会主義・共産主義への変革は、人類史の「本史」への発展となると展望していたことに触れ、「次の社会に進めることや、資本家のためでなく自分たちのために働けるというのは展望になった」と谷口さん。「資本主義の高度な生産力などを引き継いで、本来の社会主義・共産主義の社会をつくっていけることにワクワクした」と話しました。

（2面につづく）

「自由な時間」が体制を変える力に

北海道の山下大介さん（大学2年）は、志位さんの講演を通じて、資本主義ではもうけを増やすことへの限りない衝動が、生産の動機となり目的となる「利潤第一主義」への理解を深めたといいます。「資本家は、競争に勝つためなら工場の労働環境などを無視して事業を展開するし、労働者の賃金も減らす。もうけのためならさまざまなことをするのが資本主義の具体的な姿だと今回の講演でよく分かった」と山下さんは話しました。

また山下さんは、講演のQ25「『自由に処分できる時間』を広げることは、今の運動の力にもなるのではないですか？」について、志位さんが「みんなが『自由な時間』を、資本主義の社会においても持つことは、この体制を変える一番の力になる」と答えたことについても大事だったといいます。「資本主義における今の政治体制を変えるには、いろいろ勉強したりニュースを見たりできる時間が必要。そのためには、労働時間を短くして自分たちが自由に使える時間をつくらないといけない。その自由な時間があれば現代社会の現状、課題や問題点に目を向ける人も現れていくと思う」と山下さんは話しました。

▶学生オンラインゼミで、利潤第一主義の問題や、「人間の自由」が開花する社会主義・共産主義の社会の展望を語る日本共産党の志位議長

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701 FAX(03)-5772-5702

日本民主青年同盟中央機関紙

定価　月680円 〒130円 1部340円
郵便振替00180-4-106690